

むなかた協働大学 に学んで

市と市内3大学が連携して、宗像のまちづくりを担う人材を育成する講座「むなかた協働大学」。2年間に渡って行われるこの

講座では、「3大学での講座や現場研修での学び」そして「学生同士の絆」をもとに、卒業後の活動に

向けての歩みを進めて行きます。平成20年度に開講したこの講座の卒業生は、食育・子



▲屋外での講座の様子

2年間の感想

むなかた協働大学3期生

丸尾 哲郎

人生いろいろ♪～、
人生まだまだ♪～

一昨年7月22日、むなかた協働「大学」に入学しました。学生になったのは40年ぶりでしょうか。「授業」は新鮮な感覚でした。学生のみなさん、さすがに社会経験を積ま



れた方々だけに、授業中恒例の『居眠り』もなく、早弁・エスケープもありません。しっかり2時間を授業に集中していました。それも当然かもしれません。三大学学長をはじめとして講師陣がすばらしい方ばかりでしたから。

先生方には単なる知識ではなく、体験、経験を絡めて話し

ていただきました。私もこれから色々な事ができそうな気になりました。まだまだ、ということを自覚できたと思います。



「花のまち宗像」を目指して

むなかた協働大学3期生 吉田 博美

宗像を花いっぱいのまちにしたいと、自宅の庭にバラや草花・花木等を植え、400坪のイングリッシュガーデンを作り、オープンガーデン、バラやガーデニング教室等の花をテーマとした色々な活動を行っています。

1月には、むなかた協働大学の仲間と市の花カノコユリの増殖・研究を行う「宗像カノコユリ研究会」を設立。今後は、宗像固有のカノコユリの増殖と指導者の養成を行い、カノコユリの普及にも力を入れて行きます。



「MUNAKATA よがまちの会」の設立について

むなかた協働大学3期生 木下 哲

まちづくりの団体「MUNAKATA よがまちの会」を設立しました。新規6団体をネットワーク化して、歩みを進めて行きます。この会は、仲間である各団体の活動と連携をし、皆で「まちづくり」をしようと言うことを主な目的としております。これは、「ひと」が集まれば「何か」が生まれる」という期待に基づいたものであります。皆様も参加して、共に宗像を住みよい街にしていきたいと思います。



“食育と地域活動とのコラボ”など、卒業生による斬新な活動なども生まれました。大学と市・地域（市民）とが連携して実施したこの一大事業は、大学との連携による新たなまちづくりの可能性を確認したものにもなりました。来年度以降は、この経験をもとに、協働大学のステップアップ事業として、より多くの地域や市民の方が多様な形態で大学との関わりを持って、“宗像が大学のまちであることを実感できる”ものを構想中です。

協働大学 新たな ステップへ

この協働大学は、“3大学の専門性をまちづくりに活かす”“市民の皆さんに3大学をより身近に感じてもらう”という趣旨のもと、市と市内3大学とで構成する「むなかた大学のまち協議会」の地域連携事業として実施しました。3大学の先生方による専門講義などを通して幅広く多角的に学んだ結果、この事業を通じて、“中国語・韓国語版の観光ガイドマップの作成”や



▲むなかた協働大学3期生たち

育て・観光・国際交流・環境など、あらゆる分野で現在活躍しています。2月9日に行われた第3期生の卒業式では、「子どもの居場所づくり」「まち美化活動」など、今後の活動についての卒業発表が行われました。卒業生は1～3期合わせて90人に。ますます卒業生の活動から目が離せなくなりそうです。



今年度採択された宗像市人づくりまちづくり事業補助金の交付団体の中から、新規事業を紹介します。

「詩吟を通しての世代間交流事業」

宗像詩吟の会

日本の伝統文化である「詩吟」をより多くの子どもたちに伝え、詩吟の学習を通して礼儀作法を身につけ、青少年健全育成を図ります。現在、3歳から15歳の30人程の子どもたちが、毎週1回の学習会に参加しています。

高齢者施設の慰問活動で高齢者の皆さんと一緒に口の体操、発声練習をして、詩吟を楽しみました。

10月には葉山のまつりに参加して日頃の練習の成果を披露し、1年間の学習のまとめの発表会を2月22日には、宗寿園で開催しました。

この会に「友だちに誘われた」「親戚にすすめられた」ことがきっかけで参加している子どもたちは今、詩吟の他に、剣舞で白虎隊の舞に挑戦しています。

連絡先 080-5287-3026 (大丸)



白虎隊の舞

プランからアクションへ



メイトム宗像の市民活動相談窓口の様子

一方では、前回のこの欄で指摘されたように、市民活動団体（以下団体）が自由なテーマで協働化事業を提案できる仕組みの創設や、「コミュニティ」団体の協働の拡充、さらには協働における団体と行政との役割や責任をもっと確かめ合うことの必要性など、課題が次々と生じてきているのも現状です。

これまで、前回のこの欄で指摘されたように、市民活動団体（以下団体）が自由なテーマで協働化事業を提案できる仕組みの創設や、「コミュニティ」団体の協働の拡充、さらには協働における団体と行政との役割や責任をもっと確かめ合うことの必要性など、課題が次々と生じてきているのも現状です。

これまでシリーズで紹介してきた市民活動推進プランは、そうした課題への取り組みも含めて、近く「アクションプラン」（実施計画）として次の段階に進みます。市民参画等推進審議会にも、その進捗管理をしっかりと議論していく役割が求められます。「むなかた」が住み続けたい・住みたいまちになるよう、市民としてもしっかりと注目していきましょう。

（市民参画等推進審議会 井上 豊久 むなかた市民フォーラム代表）

シリーズ

市民のちから
「この人、こんな活動」

松井 みゆき さん

アニマルレスキューむなかた 代表



『小さな命を守るやさしいまちに』

我が家の犬をドッグランに連れて行き、捨て犬などの保護活動をしている人と知り合ったのがこの活動のきっかけでした。人間の都合で処分される動物の多さにびっくりし、憤り、仲間といっしょに捨て犬を預かり世話をはじめました。この宗像が動物に優しく人も動物も住みやすい街になるように、市民活動団体として活動を続けることにしました。

●野良犬なんていません

今どき、うろろろしているような野生の犬は少なくともこの近辺にはいません。みんな捨てられたり迷子になったりした犬です。迷った犬を見つけたら、必ず警察に届けてください。迷子なら必ず捜している人がいるのですから。「たかが犬・猫じゃないか」という人もいます。ペットが家族の一員になり、心の支えになっている人もいます。価値観は人それぞれですが、「動物を守る」心は人にやさしい心を育むのではないのでしょうか。

●子どもは大人のすることをみている

子どもが捨て犬を拾ってきたときは、頭ごなしに叱るのではなく、責任もって犬の世話ができるか考えさせる機会にしてほしいと思います。犬の寿命は長くても15～20年。自分のライフサイクルの中に、ペットと同居する生活を親子でイメージして判断してください。

●26年4月『動物相談室』を協働で開設

今までも狂犬病集団予防注射のお手伝いをしながら動物愛護の啓発をしてきましたが、今後は市環境課と協働で積極的に「動物を最後まで責任もって飼う」環境作りをしていきたいと思います。犬を飼ったら市に登録を！

※団体の詳しい活動内容については、メイトム宗像のホームページ、または市民活動団体ガイド「市民のちから」をご覧ください。

年間シリーズ
その9 (進行管理)
市民力をエンジンに
活プランを点検する。



人まち補助金審査中の市民参画審議員